

日本 ASEAN 友好協力 50 周年記念認定事業

JENESYS 2023 日本・ASEAN スポーツ（ラグビー）x SDGs 交流の記録

1. プログラム概要

【目的】このプログラムは、(1) ASEAN と日本の関係及び日本のラグビーについて ASEAN 諸国^(注) 及び東ティモールの青年の理解を深めること、(2) スポーツ（ラグビー）交流を通じて SDGs を推進すること、(3) 日本と ASEAN 青年のつながりを向上させ、友好の機運を高めることを目的として実施しました。

(注) ASEAN 諸国：インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス

【参加者】

訪日団：ASEAN 諸国及び東ティモールの大学生及びラグビー協会関係者等 計 77 名

（内訳）各国 大学生・専門学校生・大学院生 6 名、ラグビー協会関係者等 1 名

日本人交流大学生等 計 33 名

（内訳）立命館アジア太平洋大学（APU）ラグビー部員・コーチ 21 名、

九州産業大学（KSU）女子ラグビー部員 10 名、九州共立大学学生・教員 2 名

【訪問地・訪日団人数】東京都 77 名、福岡県 77 名、埼玉県 77 名

【日程】

● プレプログラム（オンライン事前学習）：

2024 年 2 月 13 日（火曜日）【来日前オリエンテーション】

【講義】「ラグビー普及と SDGs に係る日本の取り組み」

講師：公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会（JRFU）

普及育成部門部門長補佐 中村 愛 氏

来日までの期間 【課題学習（動画配信）】「日本理解講義」、「ホームビジット体験」、「ホストタウン訪問」、「日本と国連」、「日本 ASEAN50 関係」

● 招へいプログラム：

2 月 18 日（日曜日）又は 19 日（月曜日） 羽田空港又は成田国際空港に到着

【来日時オリエンテーション】

【表敬訪問】外務省 高村 正大 外務大臣政務官

https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_00358.html

【基調講演】「日本 ASEAN50 年の歩み」

外務省アジア大洋州局地域政策参事官室 矢澤 英輝 首席事務官

2 月 20 日（火曜日） 東京都から福岡県へ移動

【ラグビー x SDGs 交流】開会式、タグラグビー^(注1) ルール説明と競技体験

場所：JAPAN BASE（ジャパンベース）（注2）

（注1）タグラグビー：ラグビーの特徴であるタックル等の身体的な激しい接触がなく、誰でも安全に楽しめるスポーツ。ボールを持っている選手の腰に付けたタグ（リボン）を取られると走るのを止め、ボールをパスしなければならない。

（注2）JAPAN BASE（ジャパンベース）：日本ラグビー強化及び普及を目的にJRFUが2023年6月に開所した施設。

- 2月21日（水曜日）【ラグビー×SDGs交流】日本人ラグビー部とのタグラグビー合同練習及びフレンドリーマッチ 場所：JAPAN BASE、アイランドコート MIRAIBA
【日本文化体験】博多人形絵付け体験、講師：中村人形四代目 中村 弘峰 氏
- 2月22日（木曜日）【ラグビー×SDGs交流】日本人ラグビー部とのタグラグビー合同練習及びフレンドリーマッチ、表彰式 場所：福岡市総合体育館
【日本文化視察】（APUラグビー部と）太宰府天満宮、九州国立博物館
【APUラグビー部大学生及びラグビーフットボール協会関係者との交流会】
- 2月23日（金曜日）福岡県から東京都へ移動、【視察】お台場周辺
- 2月24日（土曜日）【ラグビー×SDGs視察・体験】熊谷ラグビー場、SMBCカップ全国小学生タグラグビー大会、ラグビークリニック（ラグビー初心者向け講習会）等
- 2月25日（日曜日）【ワークショップ】訪日成果のまとめと報告会準備
【報告会】訪日成果とアクション・プラン（帰国後の活動計画）の発表
- 2月26日（月曜日）羽田空港又は成田国際空港から帰国

2. 記録写真

プレプログラム（オンライン事前学習）

	
2月13日【講義】「ラグビー普及とSDGsに係る日本の取り組み」	2月13日【来日前オリエンテーション】参加者の記念撮影風景

招へいプログラム

	
2月19日【表敬訪問】外務省 高村正大 外務大臣政務官	2月19日【基調講演】 「日本 ASEAN50年の歩み」

	
2月20日【ラグビー×SDGs 交流】 タグラグビー体験（ワークショップと 男女混合チームによる練習）	2月21日【ラグビー×SDGs 交流】 タグラグビー合同練習
	
2月21日【日本文化体験】博多人形絵付け体験	2月22日【ラグビー×SDGs 交流】 タグラグビー・フレンドリーマッチ
	
2月22日【フレンドリーマッチ表彰式】	2月22日 【表彰】優秀賞受賞チーム
	
2月20日【ラグビー×SDGs 交流】日本とASEAN 青年の記念撮影（於 JAPAN BASE）	
	
2月22日【APU ラグビー部員と視察】 太宰府天満宮	2月22日【APU ラグビー部員と視察】 九州国立博物館

	
2月24日【ラグビー×SDGs 視察・体験】 熊谷ラグビー場施、SMBC カップ全国小学生タグラグビー大会、ラグビークリニック	
	
2月25日【ワークショップ】	2月25日【報告会】

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ ブルネイ 社会人

私はラグビーと環境問題解決に情熱を注いでいるので、JAPAN BASE やスタジアムでの練習、熊谷ラグビー場でラグビーを観戦したことは最も印象的で素晴らしい体験でした。清潔な環境、豊かな緑、そして自国とは異なる気候も含めて忘れられない思い出になりました。

◆ カンボジア 大学生

ASEAN 諸国と日本の新しい友人たちと出会い、さまざまな文化、特に日本の文化をより深く知ることができ、とてもうれしく思いました。

◆ インドネシア 大学院生

日本の教育では、子どもたちに早い段階でスポーツの重要性が広く理解されるようになっており、それがとても役立つと感じました。また、公共の施設やスポーツ施設が充実していることに驚きました。トイレの設備も細かな配慮がされており、利用しやすいと感じました。

◆ ラオス その他

近隣諸国の参加者と文化交流を行い、より良好な関係を構築することができました。ラグビーについて詳しく知ることができ、日本の文化についても洞察が深まりました。

◆ マレーシア 大学生

日本の文化や人々の規律正しさがとても心に残りました。また日本の風景を眺めることも楽しかったです。

◆ ミャンマー 大学生

プログラム中に多くの有名な場所を訪問しましたが、その中でも福岡が一番気に入りました。暖かい気候で、空気が澄んでいました。大宰府天満宮では日本文化に触れ、美しい景色を堪能することができ、日本食に挑戦する機会もありました。JAPAN BASE での滞在はとても楽しく、（日本の皆さんは）まるで家族のように接してくれました。

◆ **フィリピン 大学生**

福岡県では「尊重」と「結束」を中心とした価値観を通じてラグビーを学びました。「One for all, all for one（一人はみんなのために、みんなは一人のために）」という文化、そして日本人の寛大さは素晴らしいと思いました。

◆ **シンガポール 専門高校生**

他国の人たちとタグラグビーを体験し、立命館アジア太平洋大学（APU）の学生とも一緒に試合をして知り合いになりました。

◆ **タイ 大学生**

海外の友人の文化と言語を学ぶことができました。また、タグラグビーのルールと競技の仕方を学ぶことができました。

◆ **ベトナム 大学生**

日本のインフラ整備は非常に近代的かつ先進的です。日本人は環境美化意識が高く、ゴミをむやみに捨てることがないので、どこへ行ってもきれいでした。

◆ **東ティモール 大学生**

日本人は優しく親切で、日本の景色は最高でした。日本を訪れることができとても幸せでした。

4. **受入れ側の感想（抜粋）**

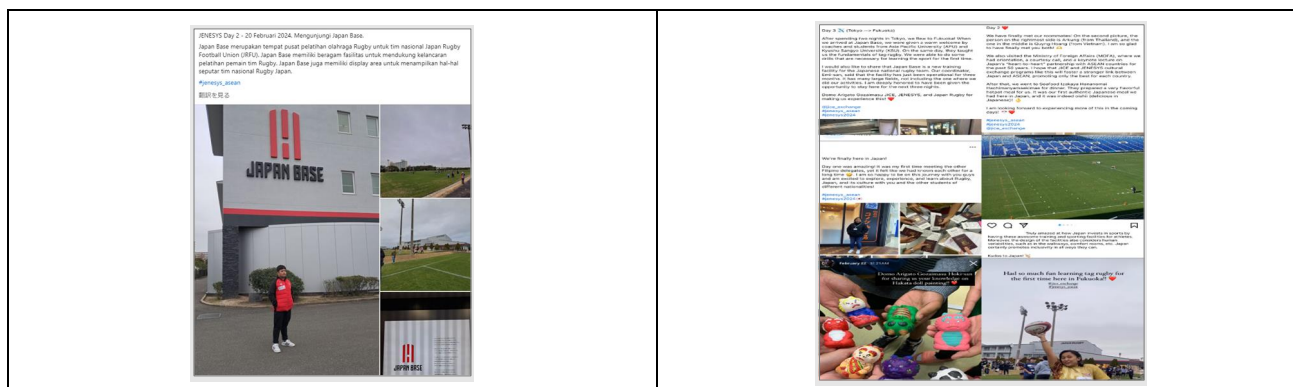
◆ **ラグビー講師**

（ASEAN 各国の青年は）練習を重ねるごとにチームワークが発揮されるようになり、プログラムを通じて期待した「尊重」や「One for all, all for one」が各国の参加者へ届いているように感じられました。今回は初めて福岡県で弊社所有施設を利用した開催になりました。これまで国際協力事業に関わりのなかった職員や関係者が国際協力の現場に触れる機会となり、やりがいや開催の意義を感じ、多国籍、多言語、多文化の利用者がこの施設を使用することで、新しい知見を得ることができました。ラグビーがもつ教育的価値やラグビー精神は、国際協力の推進に役立つと考えているので、今後も国内外を問わず、ラグビーを通じた国際協力に取り組んでいきたいと思います。

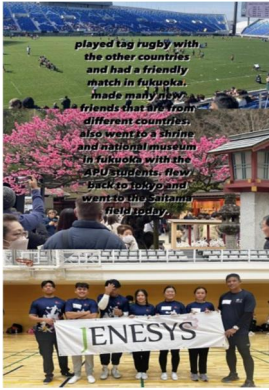
◆ **日本文化講師**

アートを通じて言葉や文化の壁を超えた参加者同士の交流が促進できると、改めて感じました。

5. **参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等**



2024 年 2 月 20 日 (Facebook) インドネシア 大学生 JENESYS プログラム 2 日目は JAPAN BASE を訪問しました。 JAPAN BASE は、日本ラグビーフットボール協会 (JRFU) が所管するラグビーを中心とした練習施設で、ラグビーチームの活動拠点にもなっています。屋内には、日本代表の活躍に関する各種資料が展示されていました。	2024 年 2 月 20 日 (Instagram) フィリピン 大学生 JAPAN BASE に到着すると、立命館アジア太平洋大学 (APU) と九州産業大学 (KSU) のコーチや学生たちが温かく迎えてくれました。ラグビーの基礎を学び、初めてタグラグビーを練習しました。JAPAN BASE は、オープンしてまだ 3 か月、ラグビー日本代表の新しいトレーニング施設であることも知りました。私たちが練習したグラウンドの他にも広いグラウンドがたくさんありました。日本ラグビーフットボール協会の皆さん、今日から 3 泊ここに泊まらせてもらい、この機会をくださって感謝します。
	
2024 年 2 月 21 日 (Instagram) カンボジア 大学生 福岡県の JAPAN BASE にておいしい朝食を食べた後、ASEAN 諸国及び東ティモールの参加者全員がタグラグビーの重要な点について学び、体験しました。	2024 年 2 月 21 日 (Instagram) シンガポール 専門学校生 明日の練習試合のためにタグラグビーの練習をしました。博多人形の絵付け体験で色を塗りました。各々違うデザインに仕上がっていたので、興味深かったです。
	

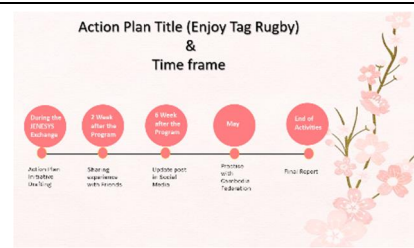
2024 年 2 月 22 日 (Instagram 等) ラオス 大学生 すべての参加者がラグビーの重要性を理解し関心を高めました。愛、温かさ、団結を感じました。どの国にとっても、ラグビーの普及は大変意義のあることです。さらに、秩序ある日本社会での生活や文化についても学びを得ました。	2024 年 2 月 22 日 (Instagram) インドネシア 大学生 福岡にて人形の絵付けを体験しました。楽しく、有意義なひと時を過ごすことができました。思い通りに仕上げることは難しかったですが、自分で絵付けをした人形は愛おしく、クロイと命名しました。
	
2024 年 2 月 24 日 (Instagram) シンガポール 専門学校生 福岡で、他の国の人たちとタグラグビーをして、練習試合もしました。異なる国々の新しい友達がたくさんできました。福岡では、APU の学生と神社や国立博物館に行きました。	2024 年 2 月 27 日 (Instagram) タイ 大学生 タイ代表として、JENESYS2023 日本・ASEAN スポーツ（ラグビー）×SDGs 交流プログラムに参加することができ、感謝しています。ここでの学びを日々の生活に取り入れ、後輩にタグラグビーを教えることで、タイ国内でタグラグビーの普及に協力していきたいと思います。
	

2024 年 2 月 27 日（Instagram） タイ 大学生 大変楽しく、最高の経験でした。日本の文化を学ぶと同時に ASEAN 諸国の友人と一緒に日本語や英語を練習する機会にもなりました。これまでラグビーは激しいスポーツであり、選手は怪我が付きものだと思っていましたが、日本でラグビーについて学び、その印象が変わりました。タグラグビーを今後も続け、早起きをし、バランスの取れた食事を取り、一歩踏み出す勇気を持ちたいと思いました。絶対にまた日本に戻ってきます。	2024 年 2 月 22 日（福岡・佐賀 KBC NEWS） スポーツで交流 日本 ASEAN 友好協力 50 周年 言葉の違う大学生同士がスポーツを通して交流しました。タグラグビーは経験を問わずにできるスポーツですが、使う言葉は様々です。ASEAN 諸国などから大学生ら男女 77 名が参加、混成チームを作りました。（中略）五年ぶりに行われたこの交流、お互いの健闘を称え合う“ノーサイド精神”を学んでもらえることを願っています。
--	---

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（11 か国別発表）（抜粋）

ブルネイ	
	
【訪日中の学び】 非常に清潔で、快適な環境、時間厳守、公共交通機関の優先席やバリアフリースイートなど設置、互いを尊重し認め合う、あらゆる人が共生できるインクルーシブな社会、プライバシー保護への配慮 【スポーツ（ラグビー）× SDGs 交流の学び】 ・ タグラグビーは、健康と幸福のために有益なスポーツであり、すべての人に男女平等な機会を与え、ブルネイでもできる新しいスポーツです。 ・ ラグビーは幼い頃から規律、チームワーク、尊敬といった価値観を育てることができます。 ・ 日本のラグビー施設は非常に充実していました。 【アクション・プラン（帰国後の私たちの活動）】 ● ラグビー（タグラグビー）普及に向けて ・ SNS を使用し、ラグビー（タグラグビー）の認知度を高めます。 ・ ラグビー初心者向け講習会（ラグビークリニック）やトーナメントを開催し、ラグビーについて知ってもらう機会を増やします。 ・ 地元のラグビークラブと協力して体育教員を養成し、より多くの学校で、共通カリキュラム活動としてラグビーの普及を目指します。（チームワーク、コミュニケーション、忍耐、リーダーシップ、柔軟性、規律といった、人生において重要な資質が身につけ、各個人の実生活で活用し、公私ともにより良い人間関係の構築につなげていきたい。）	

カンボジア



【訪日中の学び】

- ・おもてなし:日本人は外国人に対して敬意を示す親切な国民であり、全ての参加者に対して素晴らしいおもてなしの心と責任感を感じました。
- ・安全な環境:日本では夜遅くでも外出ができるほど、誰もが安全に過ごせる環境が保たれていました。

【スポーツ（ラグビー）× SDGs 交流の学び】

- ・タグラグビーは誰もがプレイできる最高のスポーツであり、日本、ASEAN 諸国、東ティモールと同世代の友人を増やすことができました。お互いの文化について理解を深めながら交流したり、タグラグビーについて話し合ったり、素晴らしい経験をすることができました。そしてラグビー精神の中核となる品位、情熱、結束、規律、尊重は、競技だけでなく、日常においても生活の基盤を成すものであると理解しました。
- ・日本はゴミが落ちておらず、清潔でした。自国でも環境の改善をしようと思います。

【アクション・プラン】

- ・「Enjoy Tag Rugby」（タグラグビーを楽しもう）活動の推進

カンボジアの様々な地域から参加したメンバーは、今回プログラムを通しての自分たちの経験を共有するため、各所属校の生徒たちとタグラグビーを練習します。その後 5 月頃から、カンボジアラグビー協会と協力し、ラグビー協会のメンバーと練習するイベントを開催し、タグラグビーについての知識を学校や地域コミュニティに広める活動を開始します。また情報の共有にも力を入れ、プログラムから得た知識と経験を Facebook や Instagram 等のソーシャルメディアを活用し、友人、家族、特に学生と共有し、カンボジア国内でのラグビーの認知度を高めていきます。

インドネシア



【訪日中の学び】

- ・祈りを形にする博多人形は、インドネシアにはない特有の芸術工芸品でした。
- ・拝殿へ参拝に行く前に、手を洗い、口をすすぎ、心身のけがれを清める手水（ちょうず）の作法は、イスラム教徒が礼拝前に行うウドゥと呼ばれる、体の一部を水で洗う清めの行為と類似点が多いです。

- ・日本では鉄道網が充実しており、利便性の高い交通網が整備されています。
- ・日本では時間厳守や順番を待つ時は列を作ることが社会の常識とされており、高い規律が保たれていました。一方、インドネシアではいつも時間に追われている感覚が希薄であり、時間にルーズな部分があります。

【スポーツ（ラグビー）× SDGs 交流の学び】

- ・日本のラグビー育成において特筆すべきことは、試合を多頻度で実施する点です。結果、参加意欲が高まり、小学生を含めたラグビー人口の増加に繋がっていました。
- ・日本のスポーツ施設は種目特性に配慮した設計がなされており、とても充実していました。
- ・日本ラグビーの精神はお辞儀や握手など互いに敬意を表す行為等が規律正しく、今後の参考になりました。闘志よりも相手の状態を気遣うという丁寧な試合が心がけられていました。
- ・日本はインドネシアとは大きく異なり、ビニール、紙、生ゴミ等、ゴミの種類に応じて分ける等、ゴミの分別が徹底されていました。

【アクション・プラン】

- ・ゴミの分別：参加者居住地域にて、個人、家族、地域住民へ向けて、ゴミの分別の周知を図り、ゴミの分類に従った専用容器を然るべき場所に設置します。
- ・小学生向けタグラグビー大会の開催：バリ州にある 22 か所小学校の生徒たちで、日本式のルール・規律に則ったタグラグビー対抗試合を開催します。

ラオス



【訪日中の学び】

日本の文化や日本人の姿勢、マナーを守る、規律正しい生活、尊敬の念をもった挨拶、勤勉、調和のとれた社会、先進的な技術を日常生活に活用している、歴史・文化遺産を守る価値観

【スポーツ（ラグビー）× SDGs 交流の学び】

- ・タグラグビーのルールや基本動作について理解を深めました。
- ・ラグビーの 5 つのコアバリュー（品位・情熱・結束・規律・尊重）について学びました。
- ・日本のプロコーチからトレーニングとコーチングについて教えていただきました。

【アクション・プラン】

- ・小学生～大学生までの 100 人の生徒・学生にタグラグビーを教えます。
- ・ラグビーの 5 つのコアバリューを伝え広めたいです。
- ・ビエンチャン県、シエンクワン県の学校でラグビーチームを作ります。
- ・コーチの能力向上のため、年 2 回の研修を実施します。

マレーシア



【訪日中の学び】

- ・古いものと新しいものの調和：日本文化は複雑で興味深く、陶器などの伝統的な芸術や歴史的建造物に、アニメなどポップカルチャーが取り入れられるなど、古いものと新しいものが見事に調和していました。
- ・日本の施設：公共交通機関等の時間が正確で効率的です。施設にはバリアフリー設備が整っており、包括的な社会が確立されています。
- ・清潔さ：文化的価値観と教育に人々の美意識が合わさり、日本では清潔な環境が保たれています。

【スポーツ（ラグビー）× SDGs 交流の学び】

- タグラグビーの良い点：運動量の増加、心肺機能の向上及び体力の増進、年齢やスキルに関係なく様々な人々が参加可能、ラグビーの基礎を知ることができる。
- 様々な国々の学生との交流：他国の学生との交流で新しい文化に触れ、グローバルな視点から寛容の精神および理解を深めることができました。学生同士のつながりだけではなく、日本や参加国の教育者や専門家と交流することで、グローバルでの貴重なネットワークを築くことができました。

【アクション・プラン】

マレーシア国内でのタグラグビー普及のため、日本で得た知見を共有します。

- ・学校と協力し、タグラグビーを体育の時間に組み込む。
- ・青少年団体と協力し、レクリエーション活動の企画。
- ・タグラグビーの効果的な指導法、及びラグビーのコアバリューをコーチへ伝授。
- ・ラグビーの認知度を高めるために SNS の活用。
- ・入門者のためのワークショップ（ラグビークリニック）を無料で開催し、基本的テクニックとルールを教え、誰でも参加できるような環境作り。
- ・タグラグビー普及のため、スポーツ活動やコミュニティの発展に関心のある企業にスポンサーになってもらうよう働きかけ。

上記達成のため、具体的には以下のプランを検討しています。

スポーツコーチ及び学校の教員を対象に、タグラグビー普及のためのイベント「マレーシア・タグラグビー・ワークショップ」を開催します。従来教える側の立場にある人にタグラグビーを知ってもらうことで、自国の若い世代へタグラグビーの普及に努めてもらうことが目的です。

実施日：学校が休暇になる今年の 5 月

場所：ラグビーのベース地であり、設備の良い Putra 大学（セランゴール州セルダング）

内容：1 日目 オリエンテーション、タグラグビーの紹介、ルール説明、練習

2 日目 報告会、ミニコンペティション

ミャンマー



【訪日中の学び】

- ・日本人は交通ルールなど規律や法律を守り、時間厳守を心がけています。
- ・トイレは全自動で近代的であり、お店にはセルフレジが導入されていました。先端技術により、人員削減効果が期待できます。

【スポーツ（ラグビー）× SDGs 交流の学び】

- ・ラグビーのコアバリューを学びました。特に品位と尊重、ノーサイド精神には感銘を受けました。
- ・タグラグビーは健康促進及び生活向上につながり、SDGs 目標3『すべての人に健康と福祉を』達成のために有効です。また、性別関係なく参加できるため、SDGs 目標5『ジェンダー平等を実現しよう』を満たしています。

【アクション・プラン】

- ・JENESYSでの経験、気づき、学び（特に時間厳守及びタグラグビーの精神）を私たちの日常生活に取り入れると共に、ミャンマー国民へ「相手を尊重し、平等に接すること」「勝敗に関わらず、コミュニケーション及びチームワークを最優先すること」の重要性を訴えかけていきます。
- ・MAJA（日本に留学経験を持つミャンマー留学生のOB同窓会）が運営している日本語学校の学生向けに、3月中に日本ラグビーフットボール協会から頂いたタグラグビーセットを使用して、講習会を開催します。タグラグビーのルール、精神、魅力など、デモンストレーションを交えながらタグラグビー普及に努めます。

フィリピン



【訪日中の学び】

- ・安全：いたるところに監視・防犯カメラが設置され、安全な環境が作り上げられていました。横断歩道、自転車と歩行者のための広々とした安全な歩道がありました。
- ・誠実・高潔：日本の文化は、誠実さとお互いの尊重で成り立っています。
- ・労働環境と技術の進歩：スーパーや食料品店にはセルフレジが導入されていました。効率化を促進し、必要な労働力の不足を補うと同時に、働きたい高齢者を受け入れる体制がありました。

【スポーツ（ラグビー）× SDGs 交流の学び】

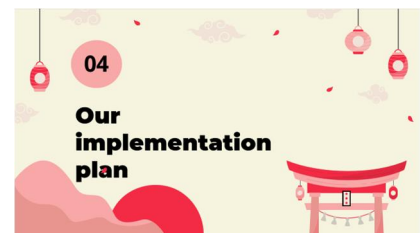
- ・プログラム中は健康的な食事を提供され、精神的にも肉体的にも健康な状態で臨めました。

- ・ ジェンダー平等であり、皆が一緒に参加できるプログラムの構成でした。
- ・ 設備の整ったスポーツ施設やインフラ、プログラムのための適切な教材などから、質の高い教育やハイレベルな産業技術と感じた。

【アクション・プラン】

フィリピンラグビー協会（PRFU）に協力を仰ぎ、スポーツ指導とタグラグビーの推進・普及を目的に、小学生から高校生とコーチ志望の大学生を対象に、それぞれ1日間のタグラグビー合宿を開催します。具体的には、2024年2月からマーケティング委員会（広報、スポンサーシップ）、ロジスティクス委員会（合宿のスケジュールリング計画）、パーソナル委員会（参加者・ボランティアの人数確認、修了書の準備）を立ち上げ、5月に実施を目指します。

シンガポール



【訪日中の学び】

- ・ 日本人のホスピタリティについて学びました。訪問した各所で出迎えや見送りをしてくれました。
- ・ 外務省ではASEAN諸国と日本の関係について学びました。

【スポーツ（ラグビー）× SDGs 交流の学び】

- ・ タグラグビーとブラインドラグビーについて学びました。：ボールのサイズ・色・硬さが異なり、ブラインドラグビーは明るい色のボールで中に鈴が入っています。
- ・ 異国の友達とルームメイトになり、チームを組んだことで、言葉の壁を超えることができました。
- ・ 街にはゴミ箱が設置されていないにも関わらず、道路がとてもきれいでした。

【アクション・プラン】

シンガポールの小学生にタグラグビーを教えます。ラグビー協会の支援を得て3月に小学校を訪問し、4月にメンバーが分担して小学校にて練習を行い、5月にはタグラグビーの対校試合をします。

タイ



Thailand perspective of Japan x SDGs

Learnings about the program theme

1. There are many different types of Rugby.
2. Rugby can create great friendships.
3. Rugby can create discipline in players.
4. Eating food that is complete with all 5 food groups is beneficial to the body.

Thailand perspective of Japan x SDGs

Action Plan Title: Cooperate with the Thailand Rugby Association to organize public relations activities about Japan and tag rugby.

Who	Everyone in Thai group.
What	It was publicized on the Thailand Rugby Association's Facebook page and members of the group shared the post to our friends.
Where	In Thailand after returning from Japan.
When	In march.
To whom	Friends in Thailand and Everyone who follow the Facebook page.
How	Post our experience of coming to Japan this time on the Thailand Rugby Association's Facebook page.

【訪日中の学び】

- ・ 日本文化について：日本には美しい文化があり、生活の質が高いことを知りました。神社での参拝の仕方は美しく、他の宗教には見られない形式でした。また、食事の種類が豊富で、食文化が豊かであると思いました。博多人形が人々の願いや祈りを表していると聞き、感動しました。
- ・ 日本での挨拶：日本語は簡単な挨拶程度であれば、比較的簡単に話せることが分かりました。私たち

が挨拶をすると日本の方々も挨拶を返してくれて嬉しかったです。

【スポーツ（ラグビー）× SDGs 交流の学び】

- ・ラグビーには様々な種類があることを理解しました。また、友情や仲間との結束を育み、規律を学ぶことに適したスポーツでした。
- ・福岡では毎食 5 大栄養素が網羅されたバランスの良いメニューが提供されており、健康に配慮されていました。これは SDGs の目標 3『すべての人に健康と福祉を』達成のために有効です。
- ・日本ではごみを分別して捨てます。これにより資源の再利用が可能となり、ごみの種類に応じた適切な処理は、SDGs の目標 6『安全な水とトイレを世界中に』、目標 13『気候変動に具体的な対策を』に関連する環境保全・温暖化防止に有益であると思いました。

【アクション・プラン】

- ・日常生活での実践：今回の参加者全員が家族に声を掛け、毎日継続的に早起きをして一緒にストレッチや体操を行い、体を動かすことを習慣にします。
- ・ラグビー、タグラグビーの魅力の発信：帰国後、3 月からタイラグビー協会の Facebook や HP、プログラム参加者の個人 SNS アカウントを通して友人を手始めに、タグラグビーや日本に関する情報を発信・共有してきます。ラグビーをはじめ、スポーツは団結・規律・友情を育むものであることを学びました。参加者全員で継続的にその魅力を発信していきます。

ベトナム



Report of vietnam



【訪日中の学び】

- ・トイレは列を作って順番に入るなど、公共の場で整列する文化が見られました。
- ・日本人は「ありがとう」「すみません」と感謝と謝罪の言葉を忘れず、礼儀正しい姿勢でした。

【スポーツ（ラグビー）× SDGs 交流の学び】

- ・ラグビーの精神に基づいた 5 つのコアバリューである「品位・情熱・結束・規律・尊重」や「ノーサイド精神（試合終了後は敵味方関係なく、互いの健闘を称え合う文化）」「ONE for ALL, ALL for ONE」に感銘を受けました。
- ・ラグビーのルールはシンプルで、学びやすく、教えやすかった。前にパスを出してはいけない、後ろにパスして走ることしかできないというルールにより、すべての参加者が積極的に参加できるスポーツでした。プレイヤーは「すでに持っているスキル」で楽しむことができ、男女問わずスポーツが苦手な子どもでも気軽に参加できました。
- ・タグラグビーでは、相手のタグを奪ったら、立ち止まってタグを相手に返さなければならない、地面に投げてはいけないというルールがあり、お互いへの敬意を示すことにつながっていました。
- ・街中には公共のゴミ箱はほとんどありませんが、道路はとてもきれいでした。人々はゴミ箱が見つかるまでゴミを携帯していました。日本の路上では、落ち葉やゴミを見かけることは非常にまれでし

た。食後のテーブルや食べ残しの片づけも自主的に行われていました。

【アクション・プラン】

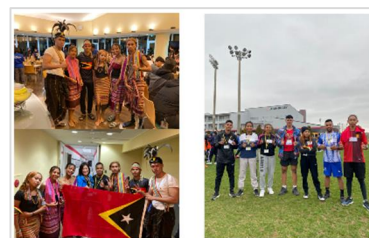
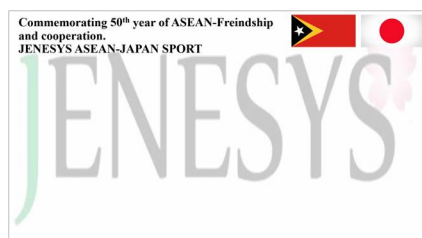
プラン1：日本のゴミを分別する文化をベトナムの若者へ広めます。

環境保全及び資源の有効使用を目的とし、帰国後から6か月以内に高校生と大学生に向けて、参加者たちが通う大学でプラスチック廃棄物及びゴミ分別方法について周知します。

プラン2：タグラグビークラブ設立：ベトナム国内でタグラグビーの人気を高めると同時に、スポーツを通じて仕事や勉強のストレスを軽減し、リラックスできるひと時を確保し、人々の健康改善へつなげます。

2024年4月9日にタグラグビークラブを成立し、タグラグビーの歴史について紹介し、タグラグビーの楽しさ、遊び方やルールを広めていきます。大学やベトナムの若者向けに週2回のレッスンを実施します。

東ティモール



【訪日中の学び】

日本では、礼儀正しい、協調性が高い、ルールを守るなどの文化が見られました。

学生との交流を通じ、人種・国籍関係なく接する姿や、困っている人へ手を差し伸べる親切さや優しさ、ゴミを持ち帰り分別して捨てるなどの環境への意識の高さが印象的でした。

【スポーツ（ラグビー）×SDGs 交流の学び】

- ・ラグビーのコアバリュー（品位・情熱・結束・規律・尊重）に基づくチームワークやスポーツマンシップといった価値観が日本文化に大きな影響を与えていることを学びました。
- ・ラグビーの持つ包摂性が多くの日本人に受け入れられ、競技者も年々増加しています。小学生からプロリーグまで、幅広い年齢層で展開されています。

【アクション・プラン】

- ・日本の環境美化やゴミの分別に学んだことから、東ティモールの環境意識の向上に向けて、帰国後3か月以内に全員が各自の大学で環境美化の周知・啓蒙活動を実施します。

ラグビーの楽しさを学生やコミュニティに紹介し、一緒に楽しむために、東ティモールでラグビーを振興します。そのために帰国後3か月以内に東ティモールラグビー協会設立に向けて委員会を結成し、各大学内や地域にラグビークラブを設立します。

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）

協力団体・学校名：公益財団法人日本ラグビーフットボール協会（JRFU）、一般財団法人福岡県ラグビーフットボール協会、九州ラグビーフットボール協会、一般財団法人サニックススポーツ振興財団

・立命館アジア太平洋大学（APU）、九州産業大学（KSU）、九州共立大学